

第3種郵便物認可

享

ひと

国民審査で「一人一票」の実現を目指す弁護士

ますなが ひでとし
升永 英俊 さん(67)



「総選挙で私は0・5票の有権者です。住所によって投票権に差別がある。それが今の日本です」
 「一人一票実現国民会議」を立ち上げ、衆院選と同時に行われる国民審査で「こんな一票の格差を合憲とした裁判官にXを」と呼びかける。
 米国で黒人は人口の12%、それでも立ったオバマ大統領に勇気をもたらしたという。「差別を受けている過半数の有権者が被害を自覚し、自ら動き出すことを願ってやまない」
 全国紙や地方紙に意見広告を出した。費用は億円単位に膨らむが、「勝訴のお手柄として頂いた報酬を社会にお返しするだけ。不正義と戦うのは弁護士として本望です」。

青色発光ダイオードを発明した中村修二さんの訴訟で「企業内発明者」の地位を高めるなど、経済裁判で新たな判例を勝ち取ってきた。「仕事の評価が金額で表されるのは弁護士の世界でよくあることです」と言ってはばかりず、01年には弁護士で最高納税者になった。
 投票の不平等を生む「選挙区割り」は国会が決めた。「ノ」と言える最高裁は07年6月、最大2・17倍の格差に「合憲」の判決を出した。この時、合憲と判断した2人が今回の国民審査の対象になっている。現在、衆議院選挙区の一票の格差は最大2・30に広がっている。
 「Xがたたくさん集まれば、判決はおのずと変わるでしょう」
 自転車ですぐに都内を疾走する。最高時速47キロ。目標は50キロ突破だ。

文・山田厚史 写真・関田航